



アセットマネジメント事業

ASSET MANAGEMENT

アセットマネジメント事業を取り巻く事業環境

先進諸国を中心とする低金利政策の長期化や新型コロナウイルス感染症拡大による世界的な経済成長の鈍化、地政学的リスクなども高まっています。他方で、世界的に技術革新は加速的に進んでおり、先進的な技術の育成が注目されています。また、SBIグループでは、今後の成長が期待できる東南アジア等で金融子会社を積極的に設立しており、カントリーリスクを含め、

様々なリスク分散を図りつつ、海外事業の拡大を目指します。更に、近年、フィデューシャリー・デューティー（顧客本位の業務運営）の徹底が求められる中、我々SBIグループの資金運用面での高度なノウハウの提供を通じて、地域金融機関の運用力向上に貢献していきます。

主要企業

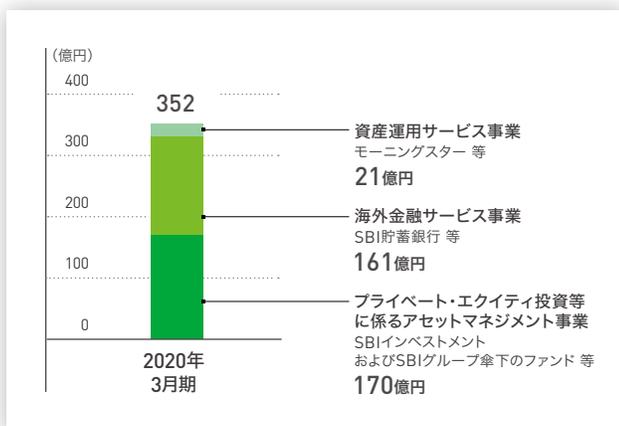
中間持株会社：SBIキャピタルマネジメント

SBIインベストメント	SBI貯蓄銀行
SBI FinTech Incubation	SBI Investment KOREA
SBI VEN CAPITAL	SBI Royal Securities
SBI Hong Kong Holdings	SBI Thai Online Securities
思佰益(中国)投資	SBI Bank
SBI & TH (Beijing) Venture Capital Management	BNI SEKURITAS
SBI Ventures Malaysia	SBI LY HOUR BANK

中間持株会社：SBIグローバルアセットマネジメント

モーニングスター	SBI債券・インベストメント・マネジメント
SBIアセットマネジメント・グループ	SBI地方創生アセットマネジメント
SBIアセットマネジメント	SBIエナジー
Carret Asset Management	SBI地銀ホールディングス
SBIオルタナティブ・インベストメンツ	SBIエステートファイナンス

2020年3月期における 連結税引前利益の事業分野別内訳 (IFRS)



2020年3月期の主な取り組み・今後の重点戦略

▶ ベンチャーキャピタル事業

- 2015年12月に設立したFinTechファンドおよび2018年1月に設立したSBI AI&Blockchainファンドは、両ファンドともに資金回収フェーズへ移行し、既に11社が新規株式公開(IPO)を達成
- (株)フソウと出資約束金額50億円のCVC(コーポレートベンチャーキャピタル)ファンドを設立、他に90億円規模のファンドを設立済み
- 従前の投資注力領域であるフィンテック、AI、ブロックチェーンや、「Society 5.0 for SDGs」の実現にも寄与するコアテクノロジーとして5G、IoT、ビッグデータに加え、「Industry 4.0」を推進するロボティクス、その他ヘルスケア(医療・介護)、インフラ(交通・エネルギー)、食品・農業等の幅広い産業における革新的技術・サービス領域を投資対象とするベンチャーファンド(通称:4+5ファンド)の設立に向けファンドレイズを開始

▶ 海外金融サービス事業

- コロナ禍においても韓国のSBI貯蓄銀行は正常債権を順調に積み上げ、SBI証券に次ぐ利益貢献を実現
- 2019年12月にカンボジアのマイクロファイナンス機関を買収のうえ、SBI LY HOUR BANK(旧 Ly Hour Microfinance Institution)として銀行ライセンスを取得
- 海外における事業拡大に向け、ドイツに現地法人を設立

▶ 資産運用サービス事業

- 地域金融機関等から資産運用を受託し、運用資産残高は2020年3月末時点でグループ合計1兆円を突破
- SBIアセットマネジメント・グループ(SBI地方創生アセットマネジメント、SBI債券・インベストメント・マネジメント)の2020年3月の私募投信の純資金流入額は全90社の中で1位に
- SBI地方創生アセットマネジメントでは、(株)島根銀行からは642億円(2020年5月時点)相当の資産運用を受託しており、従来マイナスであった実質利回りがポートフォリオ見直しによりプラスに改善